

平成23年度 学校運営プラン

1 学校教育目標

人間性豊かで、心身ともにたくましく、思いやりのある生徒の育成
～人間力の向上を目指して（2年次）～

（1）めざす学校像

- ① 規律と信頼のある学校～集団の中で個性が輝く学校（信）
- ② 温かい学校～助け合い励まし合う人にやさしい学校（心）
- ③ 美しい学校～環境づくりで心を磨き合う学校（美）
- ④ 夢のある学校～夢を語り夢に向かって進む学校（夢）

校訓

- ・ 自主
- ・ 創造

（2）めざす生徒像

- ① 意欲的で主体的に考えて学ぶ生徒（知）
- ② 誠実で思いやりのある生徒（徳）
- ③ たくましく、心と体の元気な生徒（体）
- ④ 心豊かで表現や創造に熱心に取り組む生徒（情）

（3）めざす教師像

- ① 生徒の個性を大切にし、意欲を育てる教師
- ② 生徒理解に努め、生徒とともに歩む教師
- ③ 実践力に富み、生徒の模範となれる教師

2 学校経営方針

- （1）キャリア教育の視点ですべての教育活動を実践する。
- （2）キャリア・アップ・プラン（2目標、8プラン）を実践する。
 - （目標1）人間力の育成
 - 生徒のキャリア・アップ・プラン
 - （目標2）信頼される学校づくり
 - 教師のキャリア・アップ・プラン
 - 保護者・地域のキャリア・アップ・プラン

（1）キャリア教育の視点ですべての教育活動を実践するために

キャリア教育とは、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」のことで、「将来に向けて、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」すなわち、「人間力」を培う教育であると捉える。

キャリア教育は、幼児期の教育から高等学校まで、発達の段階に応じて体系的に実施するもので、具体的には、様々な教育活動を通じ、基礎的・汎用的能力を中心に育成することでキャリア発達を促すことを目的とする。本校では、次に挙げる

- ①人間関係形成・社会形成能力
- ②自己理解・自己管理能力
- ③課題対応能力
- ④キャリアプランニング能力

の4つの基礎的・汎用的能力を、すべての教育活動で意図的、継続的に育成していくことがキャリア教育の実践であるととらえる。

※各教育活動におけるキャリア教育の実践

	教科・領域	実践内容
1	特別活動	<p>学級活動や生徒会活動のねらいをキャリア教育の視点からとらえ、学校生活の充実・改善を図る活動やボランティア活動を通して、人間関係形成・社会形成能力などを培い、個性の伸長や社会性を高める。</p> <p>また、運動会や文化祭などの活動を通して、生徒個々のキャリア発達の向上を図る。</p>
2	道徳	<p>道徳は「道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度など道徳性を養う」という社会性を伴った価値観形成を目的としている点で、キャリア教育と深く結びついている。自己理解・自己管理能力を中心として基礎的・汎用的能力の向上が図られるよう実践に努める。</p>
3	総合的な学習	<p>学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に、主体的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせるように努める。3日間の宿泊研修、5日間の職場体験学習、修学旅行での体験学習、高校体験入学、福祉体験などの体験学習を行い、勤労観や職業観などの育成に努めたい。また、ゲストティーチャーによる生き方講演会、キャリアアドバイザーによる職業講話など、生徒個々のキャリア発達につながる活動もできる限り実施し、人間力の向上に努める。</p>
4	各教科	<p>授業研究では、学習のとらえ方と主眼をキャリア教育の視点から設定し、基礎的・汎用的能力や生徒指導3機能の観点で行うように学習指導案の改善を図る。授業研究だけでなく普段の授業においても、キャリア教育の視点で教科指導が実践され、生徒個々のキャリア発達の向上につながるものと期待している。</p>
5	その他	<p>部活動は教育課程外の活動であるが、基礎的・汎用的能力を高める場として重要な活動の場と位置づけている。また、キャリアに関する情報をできる限り学校だよりやホームページ、保護者会などを通じて提供する。</p>

※キャリア教育を推進する上での留意事項

①指導計画に沿った教育活動を実践する。

- ☞教科における指導とキャリア教育との関連を常に意識して、教科指導の工夫・改善を図る。→特に人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力の育成など
- ☞体験活動のねらいをキャリア教育の視点から捉え、事前・事後の指導を充実させる。
- ☞キャリアカウンセリングを継続的に実施する。

- ☞記録と評価を行い、継続的に指導・援助する。(キャリア発達を記録するカードの使用、定期的アンケートの実施、自己評価の実施など)
- ☞統一指導項目に基づいた生活指導の徹底を図る。(挨拶、マナーなどは日常的に)
- ☞授業研究は、キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力との関係を明示する。
- ☞各行事計画書はキャリア教育の視点から作成し、つきたい能力をはっきりと明示する。また、事前・事後指導をきちんと行い、キャリア発達の向上に努める。

②保護者、地域、小・高等学校、社会教育などとの積極的な連携と人材を活用する。

- ☞キャリア教育への保護者等の理解と協力を得るために積極的に連携を図る。
(日曜参観、高校説明会、学校だより、HPなどで情報を積極的に提供)
- ☞職場体験学習等の体験活動をより円滑に実施するために、地域や事業所との連携を積極的に進め、学校外の教育資源を有効に活用する。

③指導計画の目標の到達度評価及び成果と課題分析による改善計画を立案する。

- ☞年度末に具体的評価を実施し、結果に基づき改善計画を作成する。

(2) キャリア・アップ・プラン(2目標、8プラン)を実践するために

今年度から、新しくキャリア・アップ・プラン(2目標、8プラン)を立ち上げ、実践に努める。この実践により「いじめのない楽しい学校づくり」を目指し、保護者・地域から「学校が変わった」という評価をいただけるよう尽力したい。

課題としては、次の3つのことを実践していきたい。

①各教科において基礎学力が身につけていない生徒が多い。授業評価による授業改善とともに、教材や課題プリントの工夫改善や休憩時間や放課後、部活動の時間などを利用し、補充学習を行うなど、手を変え、品を変えながら辛抱強く支援することで、子どもたちが伸びるきっかけを与えたい。

②対処療法的な生徒指導から予防的指導の取組を強化し、積極的な生徒指導をさらに推進していきたい。また、生徒会活動や学級活動の活性化に努め、生徒一人ひとりのキャリア発達の向上を図りたい。

③開かれた学校づくりの推進とさらなるキャリア教育の推進が課題である。学校評議員会や学校支援地域本部事業を活用し、定期的な学校評価に努め、これらの課題の解決のために努力していきたい。

(目標1) 人間力の育成

○生徒のキャリア・アップ

人間力とは、「将来に向けて、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」のことであって、「生きる力」と同じ方向性をもつものである。新学習指導要領では、「生きる力」を次のように定義している。

- 1 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力
- 2 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- 3 たくましく生きるための健康や体力

などで、本校では、次のような力を育成していくことを基本とする。

☆個々の生徒が、自分で目標を立て、それを達成する方法を考え、やり切って成果を出す力。

☆礼儀作法や基本的な生活習慣を身につけて、倫理観、道徳観の向上に努める力

☆命を大切にし、自ら健康と体力の向上を図っていく力

この人間力を身に付け、学校教育目標の「人間性豊かで、心身ともにたくましく、思いやりのある生徒の育成」の実現に努めたい。

A 学力向上プラン（知）

生徒個々の学力向上のためには、学習意欲の向上と学習に対する姿勢が身に付いていることが必要不可欠である。教科によって授業態度が変わることのないように学習規律や学習態度の指導を徹底し、以下のことを実践していきたい。

	課題・実践項目	実践内容・具体的方策	達成度	診断・課題
1	基礎・基本の徹底	☞基礎的・基本的な事項の確実な定着のための家庭学習の習慣化を徹底させる。		
2	活用能力育成場面の増加	☞各種レポート作成やチャレンジ問題などの課題に積極的に挑戦する場を設ける。		
3	学習環境の整備と学習規律の定着	☞聴く、話す、自己表現と人間関係形成・社会形成能力等の向上を図る。		
4	TTを活用したきめ細かな指導の実践（数・英）	☞英語と数学科において、TTを活用したきめ細かな指導を実践する。（数学は1・2年、英語は2・3年）		
5	長期休業中の学習会	☞長期休業を利用して、学習会を開催する。		
6	テスト週間の全校学習（必要な回数）	☞テスト週間の放課後（40分）に、生徒全員によるテスト勉強を実施する。		
7	部活動の時間の活用	☞長期休業日等を利用し、自主学習の場を設定し、学習意欲の向上と基礎学力の向上を図る。また、縦割りの人間関係により共同学習のよさを学ばせる。		
8	全国学力学習状況調査の分析と活用	☞国語、数学科において学習状況調査を分析し、その課題を踏まえ、今後の授業改善と学力向上のための手だてを工夫する。		

9	選択授業の工夫（3年）	☞高校、高専、大学の教員による出前授業を企画し、生徒たちの意欲向上につなげる。		
10	総合的な学習の時間の充実	☞活用能力育成のための大型レポート作成やプレゼンソフト活用によるプレゼンを作成する。		

B 人間関係向上プラン（徳）

人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力をベースとして、いじめのない楽しい学級、学校づくりをめざす。

	実践課題・実践項目	実践内容・具体的方策	達成度	診断・課題
1	基本的な生活習慣の確立	☞「いつでも、どこでも恥ずかしくない活動」をめざすことにより、基本的な生活習慣の定着を図る。		
2	思いやりのある学級（学校）づくり	☞きまりを守り、いじめを許さない取組で楽しい学校、行きたい学校づくりに努める。		
3	アンケート実施による問題の早期発見（月2回）	☞定期的にアンケート調査を実施し、いじめなどの早期発見に努める。		
4	生徒会執行部によるあいさつ運動の実施	☞始業15分前から生徒会執行部による、あいさつ運動を実施とし、全校生徒への啓蒙を図る。		
5	生徒会活動の活性化	☞生徒会行部による自主的活動を推進し、いじめのない楽しい学校づくりに努める。 ☞生徒会専門委員会の活動を充実させる。		
6	学級活動の効果的な活用	☞QUの活用やエンカウンター・AFPYによる活動を実施し、人間関係形成・社会形成能力の育成に努める。また、係活動を責任もって果たすことにより、キャリアプランニング能力の育成を図る。 ☞終わりの会で1分間スピーチを実施し、人間関係形成・社会形成能力の育成を図る。 ☞係り活動を充実させキャリアプランニング能力の育成を図る。		
7	清掃活動の推進	☞「人が環境をつくり、環境が人をつくる」と言われるように、心優しい人間を育てるにはすばらしい環境		

		が必要である。師弟同行の清掃活動を継続的に推進し、きれいな環境を構築する。		
8	美化意識の高揚	☞ 定期的な花壇の整備・管理、校内掲示・学級掲示の創意・工夫に取り組む。		
9	ボランティア活動や社会福祉体験の推進	☞ ボランティア活動や福祉体験などさまざまな体験を積み重ね、奉仕の精神を身に付けさせる。		
10	スクールカウンセラーの効果的な活用	☞ スクールカウンセラーと連携した効果的な対応と生徒指導体制を確立し、カウンセリング機能を充実させ、学校不適應の未然防止に努める。		
11	教育相談の実施(年3回)	☞ 教育相談を実施することで、生徒の持つ悩みの解決を図り、生徒がいつも教師に見守られるという環境をつくる。また、キャリアカウンセリングを教育相談の中で併行して実施し、進路指導に役立つ。		
12	道徳教育・人権教育の計画的な実践	☞ 心に響く授業に取り組み、規範意識や倫理観・他人を思いやる心、美しいものに感動する心を育む。 ☞ 道徳等で人権意識を高め、日常生活における人権感覚を育成する。		
13	豊かな体験活動の実践	☞ 総合的な学習、特別活動などで体験活動を実施し、人間関係形成・社会形成能力の育成を図る。		
14	地域行事への参加	☞ 地域主催の行事や公民館行事などにできるだけ積極的に参加し、地域住民との交流を図る。		

C 体力・健康向上プラン（体）

「健全な精神は健全な肉体に宿る」という言葉にあるように、食育と連携しながら健康と体力の向上を図っていく。

	課題・実践項目	実践内容・具体的方策	達成度	診断・課題
1	健康教育と食育の推進	☞ 身体の健康と心の健康は、「心の教育」と「確かな学力」の源である。生徒の心身の健康について常に的確な把握が必要である。 ☞ 食事の重要性、食生活のマナーや食事を通じた人間関係形成・社会形		

		成能力の育成、食物の生産等に関わる人々へ感謝する心を育むなど、食に関する指導を「食育」として捉え推進する。		
2	体育での基礎体力の向上	☞体育の授業で基礎体力の向上を図る。		
3	部活動での基礎体力の向上	☞各部活において、効果的な技術力を育成するためにも、サーキットトレーニングなどの基礎体力向上のメニューを工夫する。		

(目標2) 信頼される学校づくり

○教師のキャリア・アップ

子どもは、誰もがよりよく生きたいという願いをもっている。この願いを教師が受け止め、子どもの可能性を引き出し、信頼関係に基づいた指導を進めることが大切である。「教師が変われば子どもも変わる」と言われるように、常に教育活動や日常の生活場面において、一人ひとりを大切にしているか自ら問い、個に応じてきめ細かく指導することが重要である。教師と子どもとの人間関係が愛情に満ち、信頼関係の上に成り立つことが必要である。

A 教師力向上プラン（資質向上）

	課題・実践項目	実践内容・具体的方策	達成度	診断・課題
1	キャリア教育の視点や生徒指導3機能を生かした授業改善	☞自己存在感をもたせる、自己決定の場を与える、共感的な人間関係を育成するという生徒指導3機能を生かした授業設計の構築を図る。 ☞自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、実践し、その結果を評価・改善する機会を設ける。 ☞基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会性能力、課題対応能力など）の育成の視点から授業を構築する。		
2	意図的・継続的な基礎的・汎用的能力の育成	☞すべての教育活動の内容をキャリア教育の視点からねらいを設定し、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力を意図的に育成する。		
3	適切な学習評価	☞定期考査の得点以外の観点も評価に加味し、生徒の多面的な能力を評価する。 ☞評価はその後の授業にフィードバックし評価と指導の一体化を図る。		

4	生徒による授業評価の実施（学期に1回以上）	☞生徒による授業評価シートで授業評価を実施し、授業改善に努める。		
5	保護者等による授業評価の実施（年2回）	☞日曜参観日やPTA総会時の授業を利用し、保護者による授業評価シートで授業評価を実施し、授業改善に努める。		
6	小学校への出前授業の実施（各学期）	☞本校校区の3小学校に定期的に出前授業を実施する。		
7	部活動での指導力の向上	☞部活動は課外活動であるが「学校教育の一環として、教育課程との関係が図られるよう留意すること」と新学習指導要領では記載されている部活動の指導が学校教育に寄与できるよう、創意工夫し指導にあたりたい。また、体力・精神力・礼儀や作法などを身につける場とし、人間関係を築く力も向上させたい。		
8	綱紀保持と服務規律の研修の実施	☞信用失墜行為について、日頃の服務や勤務をより厳正なものにするためにも、定期的に綱紀保持と服務規律に関する研修を実施する。 ☞夏季休業中に外部講師を招聘し、綱紀保持（交通安全など）の研修を行う。		
9	校内研修の推進	☞確かな学力班、心の教育班、人間関係づくり班による授業研究とプチ研究授業（一人1回）による校内研修で教員個々の資質向上に努める。 ☞特別な教育的支援を必要とする生徒の理解を深め、支援について共通理解を図る。また、特別支援教育の校内研修を年に1回は実施する。		
10	各種委員会の適切な運営	☞各委員会を定期的開催し、情報交換を密にし、連携を図る。また、話し合いの結果を教育活動や学校経営等に生かす。		
11	スクールカウンセラーとの連携	☞スクールカウンセラーと連携をとり、相談活動を充実させる。また、夏季休業中に研修会を行う。		
12	進路指導の計画的な実践	☞生徒が進路実現に向けて努力するよう、各学年に応じた系統的な進路指導を行う。		

B 信頼関係向上プラン（開かれた学校づくり）

	課題・実践項目	実践内容・具体的方策	達成度	診断と課題
1	日曜参観日の実施（年3回）	☞年に3回、日曜参観日を実施し、保護者・地域の方々に授業を提供することにより、地域に開かれた学校づくりに努める。		
2	学校評価の実施と公開	☞学校評価は、教育活動の達成のための目標設定と具体的方策を示し、全教職員が4段階で評価する自己評価と、その自己評価をもとに学校評議員会でご意見・ご提言をいただき作成する学校関係者評価で構成する また、自己評価と合わせ、保護者や生徒によるアンケートなども実施し多くの視点から学校教育活動を点検することとする。 なお、アンケート、学校関係者評価、自己評価をまとめたものを学校だよりや学校のホームページ、保護者会などで公開し、信頼関係の向上に努める。		
3	ホームページの公開と更新	☞ホームページを公開することにより、学校の情報を発信し、開かれた学校づくりに努める。また、週に2回程度は担当者が更新する。		
4	学校だより等の定期的な発行（月に1回以上）	☞学校だより、学年だより、保健だよりなどを定期的に発行し、できる限り子どもたちの学校での様子を保護者・地域の方々に知らせ、学校の様子を把握していただく。		
5	保護者との連携強化	☞生徒の学校内や学校外の問題は、迅速に保護者連絡や家庭訪問などを実施し、保護者との連携を強化し問題解決を図る。（早し良し、遅し悪し）		
6	地域行事への参加	☞一人1回は地域主催の行事に参加し、地域住民との交流を図り、地域から信頼される学校、教職員をめざす。		

C 危機管理向上プラン（安全・安心）

	課題・実践項目	実践内容・具体的方策	達成度	診断と課題
1	防犯・防災訓練の実施（年1回以上）	☞スクールガードリーダーと連携し、不審者対応の防犯訓練を実施する。また、火災、地震などを想定した避難訓練を2学期中に実施する。		
2	校内・校外巡視の実施	☞いじめや喧嘩などの問題行動は、10分の休憩時間、昼休み、放課後に起きることが多い。問題行動の抑止や早期対応の措置のために、校内・校外巡視を実施する。		
3	関係機関との連携強化	☞教育委員会、警察、少年安全サポーター、民生委員・児童委員などの関係機関と密に情報交換し、不測の事態への対応や不登校・ひきこもりなど学校だけで対応できない問題に連携しながら対応していく。		
4	生徒指導・危機管理マニュアルの研修	☞危機管理意識の向上と持続のための研修と、県が作成した生徒指導マニュアルの研修を定期的に行い、不測の事態に備える。		
5	施設・設備の管理	☞施設・設備の安全点検の月1回の実施や破損箇所の早期補修を行う。		

○保護者・地域のキャリア・アップ

保護者・地域の方々が学校に入ることによって、これまで閉鎖的であった学校に新しい風が入り、生徒指導面でも有益になることが多い。沢山の保護者・地域の方々が来校されることにより、学校に対する理解が深まり、批判的な言動が理解的で協力的な言動に変わることが期待できる。保護者・地域の方々がキャリア・アドバイザーとして学校に関わることで、自分自身がいきいきとして、やってよかった、もっと続けたいというようになれば、学校の人的環境や物的環境の向上につながるものと期待する。

A PTA活動向上プラン

	課題・実践項目	実践内容・具体的方策	達成度	診断と課題
1	学校行事や授業参観への参加率の向上	☞PTAの執行部や常任委員の会員への呼びかけや、参観日を週休日を実施するなどして、学校行事や授業参観への参加率の向上を図る。		

2	P T A 常任委員会での情報交換会の実施	☞ P T A 常任委員会で学期に 1 回程度、実施し、学校教育の諸問題について、教職員と情報交換し、よりよい解決の方策を検討する。		
3	P T A 研修会の実施	☞ 外部講師による P T A 研修会（人権教育研修会など）を年間 1 回以上実施する。		
4	講師としての授業参加	☞ 保護者をキャリア・アドバイザーとして、キャリア教育の推進に活用する。		
5	生徒とともに奉仕活動や清掃活動の実施	☞ 年に 1 回は、子どもたちと一緒に奉仕活動や清掃活動を実施し、子どもたちとの人間関係形成能力を養う		

B 地域・関係機関との連携向上プラン

	課題・実践項目	実践内容・具体的方策	達成度	診断と課題
1	学校評議員会の開催（年 2 回程度）	☞ 年 2 回程度、学校評議協議会を開催する。学校行事や学校公開週間の参観の拡大、地域住民の学校教育への参加、地域ボランティアの活用、キャリア教育の地域への啓蒙や支援、外部評価の実施など、開かれた学校づくりの推進を図る。		
2	学校支援地域本部事業の開催（年 3 回程度）	☞ キャリア豊富な地域人材を学校支援ボランティアとして活用し、地域との連携を強化する。		
3	公民館との連携	☞ 公民館行事への生徒の参加を積極的に呼びかけ、郷土を愛し、大切にすることを養う。また、商工会と連携し 5 日間の職場体験学習（キャリア・スタート・ウイーク）、職業講話の充実を図る。		
4	地域サークル等への渉外活動の実施	☞ 学校行事などの地域の参加率を向上させるために、地域のサークル活動への渉外活動を強化する		
5	小学校との連携、高校（高専・大学）との連携	☞ 校区内の小学校との交流活動、高校、高専、大学からの出前授業など、さらなる連携を図り、よりよい関係づくりに努める。		
6	保護司、民生委員・児童委員との情報交換会の開催	☞ 周陽地区の保護司、民生委員・児童委員との情報交換会を年 2 回程度		

	(年2回程度)	開催し、子どもたちの健全育成のために協力して指導にあたる。また、家庭環境で難しい家庭に対しても、連携をとりながら、改善に努める。	
--	---------	--	--

3 今年度の努力点

昨年度の学校評価に基づき、次のことを努力点として、実践していきたい。

- 1 社会的・職業的に自立するために必要となる能力の育成（基礎的・汎用的能力の育成）
- 2 心の教育の推進（安心で安全な人にやさしい学校・学級づくり）
- 3 基礎・基本の徹底と確かな学力の定着（学び合い・学び直しのすすめ）
- 4 信頼関係を基盤とした誠実で熱意のある教育実践（学校評価による信頼関係の構築）
- 5 生徒指導・教育相談体制の充実（いじめ・不登校への対応、小・中連携教育の推進）
- 6 教職員研修の充実と評価・改善（人権教育、特別支援、生徒指導、授業研究等）
- 7 生徒会活動の活性化（生徒の自主性の育成、ボランティア活動の広がり）
- 8 適正で活発な部活動の指導・運営（土・日のうち週1回の休養日を確保）
- 9 安全教育の充実と教育環境の整備（安全確保、清掃美化、施設設備の充実）
- 10 学校支援地域本部事業の実施による積極的な連携（PTA・地域との協働実践）

本校は、キャリア教育の推進に努めているが、特に、基礎的・汎用的能力の一番ベースとなる、「人間関係形成・社会形成能力」の育成を土台として実践していきたい。

今の日本企業は、学習能力よりも、「人間力」すなわち、コミュニケーション能力や責任感、積極性、行動力などの職業人意識、ビジネスマナーなどを重視している。

現在、100%近い就職率を誇るある私立大学は、人間力の向上をめざすキャリア教育を積極的に取り入れている。この大学は、従来の講義形式の授業だけでなく、数名からなるチームでプロジェクトを組み、自分たちでテーマを設定し、問題点を発見していく授業を取り入れている。そして、講義や実験・実習等で身につけた知識や技術を総合的に応用して、解決方法を考えていき、その成果をプレゼンテーションで公開発表している。

「学力」×「人間力」＝「行動する技術者」

というプロジェクト型教育体系が整っており、全国の学長が選ぶ大学の上位にランクされている。

この大学の就職率が高い理由は、こういった「人間力」の育成に力を入れて教育している結果と言える。「行動する技術者」育成を教育目標に、学生一人ひとりが自己実現の目標をもち、「学生が自ら学ぶ教育」を実践している。受け身の学習ではなく、自ら学ぶ力を培う教育に取り組んでいる。

中学生の段階から、こういった能力を身につけていくことが、「自立型人間」を育成することになると考える。

本校も、全ての教育活動で「人間力」の育成に努め、

「学力」×「人間力」＝「行動する生徒」

というキャッチフレーズのもと、活気ある学校づくりに努めたい。

4 今年度チャレンジ目標

今年も、次のことをチャレンジ目標として実践して行きたい。

「笑顔で心つなぐ挨拶、人にやさしい学校づくり」

5 その他

教職員としての資質向上のためにつぎの5つのキーワードを常に意識しながら教育活動を実践したい。

1 情熱

2 段取り

3 目配り・気配り

4 確認

5 感謝